



テレガラーフ傳習聞書

洋学文庫
文庫8
C 85
1





初多東國よりエリキトルテガラフ物と云ふ物と献したる事
 今立崎の事人等官ファンテンフルシク此事を能知せ
 る事にして 仰りて傳りて 但磁石と陰陽の事と保
 て極度なる根元の理微細の事々 今得る事と云ふ
 器物の数々系法の程々用法の次第悦びを得る則
 図を如て記ししる 圖書丸の如し
 エリキトルテガラフ物 数字の間と云ふ事 遠境と云
 今圖を如ししるの要具なる 西洋のガルハニの事と云ふ



エレキトルの理をせんとて此器を發明志せりテレグラフ
 と云ふ合圖といふ言を未だなむハ則ちエレキトルテレグラフとい
 へば何なるや此器の用をなすも高塔をいへば蓋ては掛
 かる所もこれと告ぐハ忽ち合圖の管点を取らば
 あり其管点を一語テ合見といふ條件の條件なり
 とをたむひなく忽ち志しる事とてこの事なり
 遠境も耳に伝きて物終り同くはるを素より砲
 費成り必強原なりとて合圖をなす事とわらけ

てしふ事きり何をも則ちわらけ伝きなり
 此器を用ひ
 うこめりなり

テレグラフ要具の量

- 一ズワールシユール 硫酸 水四十五分
- 一コーブルスファイトリオール 丹礬 酸一分
- 一ツウトレエールシニキ 分量なり丹礬水
- 一ツルテール をわけて水丹礬の
色ふなるを度と
て用ひら
- 一テレグラフ要具イロハ印銘書本用法 塩精亞鉛 洞鉄線の線用と塗
同前塩精を塗れ
る上は焼く

一 エレメント陶壺一組と云 大小子と云々大の方石焼
小の方石焼は一組有り 素焼壺

の内は筒形の鈿丹と硫黄酸を入る石焼壺と素焼
壺の間は銅止板を挾丹蒼水を入る此一組をエレメン
トと云ふ素焼壺の内は入り物に鈿丹と次の石焼壺
の内の銅止板を二枚目の如く結合して順に並ぶ
物の小口より出せる鈿丹の線はスプレーールへルれ一枚目
の図より
螺旋状を捨てるて結合備壺の後のスの穴より
末の小口より出たる銅の線を如く結合して後のク

の穴を捨てるる是をホーフトバッテリー又同物
素焼壺に筒形鈿丹と硫黄酸とを入る石焼
壺は銅止板と丹蒼水とを入る是を一枚目の如く
銅を銅斗より鈿丹より四十文字形の捨てる
物あり結合鈿丹の線は物のスの穴に銅の線より
物のクの穴より捨てるる是をスプレーールへルれ
バッテリー
此バッテリーよりエレメントの如く起て磁石を
費する根元の蒸物なるも散て壺の數十組三組

と定むる物ありん 又陶器も限るも硝子器も
 も亦理然しやうべし 唯電力はよく仕事をする
 中(器物の扱方)大抵おもしろ茶の匂を増して氣力
 の強弱も仕事にも影響を及ぼして フラッシュイキバツ
 テーの結合しては電カの中を流して何と電を
 方(通)を逐往來の周辺をなす 常子此テ
 カラフを折重なる茶水の字を落しては通
 力もよくなるものなり 日數三日を隔てて茶水

器物も改らるる 洗きて改修し 此列の折是
 の度より 洗きて改修し 此列の折是
 彼方より通の合圖の要用なり 此列の折是
 一してしてして 備え物を檢えて 階のた
 梯器物の引張をなすとき 此列の折是
 此列の折是

パツピールル紙を巻

一 紙を巻た四枚目の如く車は掛うして紙の幅丸

六分酒、裁切此中に筆をさし書きを引こし一車
 具を紙の厚紙をよこし一車具を紙の端に引こし
 丸車の回しこし紙を引こし一車具を引こし
 今圖の儀を記すなり

スリユートル 譯名渡巻
 一板の紙 三枚目の圖に引こし

イ印
 一 ホウト、プラシク 巻板

一 ケールゴール、プラット、カト 挟金
 テウエ、ソップ、スライテ、スライツケン

挟子を挟たる。金具より象牙の管より白金を貫通

一 何れ象牙をエシキトルを過すの如く一板にエシキ
 トルを過す一を筒より白金を貫通すの一種
 エシキトルを過す一を筒より象牙の管内より過
 一 何れ象牙の白金を貫通すの如く一板にエシキ
 トルを過す一を筒より象牙の管内より過すの一種
 一 何れ象牙の白金を貫通すの如く一板にエシキ
 トルを過す一を筒より象牙の管内より過すの一種
 一 何れ象牙の白金を貫通すの如く一板にエシキ
 トルを過す一を筒より象牙の管内より過すの一種

エシキトルを貫通す一を筒より象牙の管内より過すの一種

一金類 一水 一地中

エシキトル氣面をこする物

一硝子器 一石 一象牙 一脂

一瀝青 竹脂 一石焼の膏 一結物

一木綿 一木類

一ハフボーム ハ印 挺子

挺子の跡のし中細の白金の乳を粉つた物
木糸を擲 エシキトル氣面をこする要具なり

二印 一ホウテコノツブ 木圓

一 ホ印 挺子端の急所

一 ホ印 インス子イテング 切欠

一 ハ印 挺子の上下をなぐ弾金をこす物

一 ハ印 プラチナコノツブ 白金糸

一 ト印 挾金の部をこすこと

一 ト印 アス 軸

一 挺子の挾金と針をこす器具

子印

一 テーブル、ホルミグ、ライトステッキ

白金身乳房形

メット、ブラチイナ、ピュート

一 ^{リ印} 挺子の字よきをもる白金の金具

弾金

一 ^{リ印} 五ール

一 ^{又印} 挺子の切欠に付たる金具

牙管

一 ^{又印} イフオール、コルクケト、メット

一 ^{ル印} 挟 ^挟 金の部ふつへること

白金身鎖

一 ^{ル印} ケール、コプル、アンベルケイ

一 挟金の部ふつへること

スリネートル 錠の弁話

一 錠蓋へ付る挺子の木蓋を指して押籠し

子上下して横を乳房形をもる錠と

面へ或は絶て全周して横法をなすものなり

オーフル、フレンゲル

譯名移書 一錠の語

五六枚目の図ふつり

一 五クロー、マグ子ト

磁石脚

磁石を自然に陰陽の力を保つものなり一枚目の図

出ること針金小指系をなす磁石脚の生換を

右丸を以て丸を巻くは是臨陽の道程也
て此本丸を以て丸を巻くは一本の目一縦合を
丸斗りよ巻は其目所持の力丸を以て巻くは沙目
を倍力を生ずる又生鉄よ巻の針を長く巻くは其
力を増すものなり針金の巻方を重くても一
生鉄よ正キトルを以て磁石を以て正キトル
を具とせん元の生鉄よなる鋼よ正キトルを以て
面を以て磁石を以て正キトルを以て面を以て

磁石の力を失せぬやの如く都て金具を以て生鉄を用
ゆ鋼を以て火を焼く磁石を以て失せぬものなり

一アインクル

破

破れ磁石脚の生鉄へ磁石の氣を以て吸ふ上下
の間に金具を以て上下小周て合圓の面を以て

一ヘフボーム

挺子

挺子を破るを以て其ものを以て破の磁石脚を以て
其下に上下を以て金具

二印
一 ステム・ピュント

持せ

ホ印
一 アス
挺子を挟むる器具

軸

ハ印
一 スピラール・ハール
持せしむる挺子かゝるを貫通ししむる器具

螺洗

ト印
一 コロム・メチー
挺子の上下より力をそゆる器具

小柱

小柱をさしこむる柱

ナ印
一 スクリュー

銃

リ印
一 スタンプ・チー
小柱の上よりて螺洗の正縮をなす

小柱

ヌ印
一 プラッテ・コロム
螺洗をなする小柱

平柱

プラッシュ・レイキ・バッテリーより起る五キトルの氣流を續ける

要具

ル印
一 ホーフ・エステアルム

上腕

平極の力を得る 鑿留の金具

一 ^{ッ印} オンドルステアルハ 下腕

平極の力を得る 鑿留の金具

一 ^{ワ印} スクルーフメットイホルズメント 牙端鑿

上腕より下腕象牙の鑿

一 ^{カ印} イホルルビメント 牙端

鑿を換色の部に入ること

一 ^{ヨ印} スクルーフメットプラチーナビメント 白金端の鑿

下腕より上腕の鑿

一 ^{ク印} プラチーナビメント 白金端

下腕より上腕の鑿先（片を切る金具）

一 ^{レ印} フルスコイバールコップル 進退鋼

平極の力を得て上下なる金具小片（切）をその力の

強弱より上下をなす一む鋼金具

一 ^{ツ印} ケレハスクルーフ ヌ銃ニツ

進退鋼よりなる鑿

一 ^{子印} スワルテホウト 黒木ニツ

平極の力を得る 鑿留の金具
小極の力を得る 平極の力を得る 鑿留の金具
黒木ニツ
地板細

エレクトルの字乃通しを留る器具

イフォールコイルキー 牙管ニツ

牙端の部よりなること

コーブルゴントプライト 銅地板

ホウテフートステスツ 鋳板

ウエーキエイスル 生鉄

コーブルケムブロッキー 銅ノ具五ツ

磁石脚乃古鉄具

磁の四方巾を有る銅の器具

オフルブレンゲル 磁石 磁石脚

一 磁石脚の生鉄 磁石の字を生じて破を留る

多に磁石の字を生じて破を留る

多に磁石の字を生じて破を留る

くをきつて双方とし 合図の字をなせる

ラードルウエルキ 詳名車具 七八九枚目の図より

アンクル 磁

ハ印

一 ステュンピュント

持セ

一 フヘボーム

挺子

一 スタール スティフトメット スクルーフ

珍身筆ノ金

一 巻紙又点碇を引く器具

ホ印

一 ケレム スクルーフホルスタール スティフト 筆金ノ陰

ヘ印

一 スクルーフホルアスファンヘフボーム 挺子心陰

ト印

一 スクルーフホルアングル 碇陰

子印

一 フラチイナ プラチナー 白金心板

挺子よむをる 白金の金具

リ印

一 フルティカレゲテールテ 挺子立棒

又印

一 挺子あむをる立棒 是よ 螺鉄を身上下の力を傳ふ

フルチカレゲテールテ

一 プラチイナ プラチイナ フォール 立持の白金心板

立持よむをる 白金の金具

ル印

一 スピラールヘール 螺鉄

シ印

一 スクルーフファンスピラールヘール 螺鉄陰

ワ印

一 コムメチー 小柱

カ印

一 ステールスクルーフ オップ プロムメチー 小柱上籠

一 ケムスクルーフ ホール ステルスクルーフ 小柱ノ籠

一 トラルスクルーフ ホールフルチカレゲテールラ 立持のノ籠

一 ムール 女籠

一 アスファンラット 車軸

一 ケツティンクラット 願車

一 タントラット 齒車

一 ロンドスル 第二齒軸

ラ印

一 テウエーテタンドラット 第二齒車

一 ロンドスル ファンデルテタンドラット 第三齒軸

一 テルブレタンドラット 第三齒車

一 ロンドスル ファンフィールテタンドラット 第四齒軸

一 フィールテタンドラット 第四齒車

一 ロンドスル ファンウィンドフリューゲル 一枚車の齒軸

一 ウィンドフリューゲル 一枚車

一 バッピールコルメットタンドラット 齒車付 紙巻

マ印

カ。パツポールホルネトグルーフ

溝の紙巻

ケ印

フ印

一ステイファイ

牡丹の柱

コ印

一ソクテイニングスフラーチー

紙挾

エ印

一スタンク

プラーチー

紙挾の錠

テ印

一バルラット

貫三本

ア印

一バル

据嵩車

サ印

一アスメントイネ子イテイニング

車留

切尺車軸

キ印

一ステル スクルーフ

極ノ錠

ユ印

一ムールスクルフ

女錠

ノ印

一フェール

押金

ミ印

一スクルフラムフェールスパンチン

押金ノ錠

シ印

一イフォールコークルチー

牙管

エ印

一イフォールル

牙軸

ヒ印

一コーブルプラーチー

引留銅

モ印

一コノツブメットスタンク

牡丹の引棹

一ケレハスクルーフ

メ鏡貳ツ

ラードルウエルキ 車具 の糸括

一車具蓋ふハ磁石脚のハ磁石脚へ有ブラス
レイキバツテレイコウ氣通起ル
梭子の上下を以て
移置ハ回結コウ
梭子の先へ筆を以て
筆を以て溝の紙を以て押當
点形を以て
又第一の要具として兼力強弱不急乃擲方よ
て点形の出来不出来ハ何をも
軒要の事なる物

紙を紙巻より引出牡丹の栓を以て溝の紙を
軸を蓋車方の紙巻との間ハ挾紙の本を以て
以て牡丹乃栓を以て以て余々九枚目の圖
を以て考ふ。蓋の素より紙の通る引延るハ斜
りありて之を以て一文字より引紙挾を以て以て
以て留りて又蓋の小口牡丹を引柄を引出せハ
引留るハ倒る一枚車より其体の車のことハ
運轉するを以て從圖より以て以て小直り

・鉄を提するより自然と運轉するより其を紙に書
の法よりなる

備置系足踏臺の亦法

一 備置の足踏臺は、**鍵臺**、**移臺**、**車具臺**、**此臺**を備
有する。其の臺は、**地板**、**穴**を穿、**此穴**より
ハ箱の道へ銅線を通し、又此穴へバッテリーの
の線ハ箱を通し、留るよりして、**此キトルの氣**三
の臺へ通し、**合圖**の業をなれり。但備置の

裏にある道へ銅線を通し、**此臺**の如きなる
なり。淺くは、**ギョウタ**、**パール**、**チャー**、**木の脂**、**一燈**の
中より、**余**十枚目の圖を見て考へたる。

一 備置の田引の銅線の面は、**此**の通り

一 ル印

移臺の四

一 ア印

鍵臺のワ

一 初ク印

移臺の一

一 初ス印

車具臺のセ

一 後ク印の線

移墨の五

一 後ス印の線

鍵墨の力

一 鍵墨の線

移墨の二

一 車具墨の線

移墨の三

一 備墨の穴に接する線

一 ル印導の線

一 ア印埋板の線

一 初ク印フラーとレイキバッテリーの銅線

一 初ス印同銅線

一 後ク印ホウドバッテリーの銅線

一 後ス印同銅線

一 各所墨を備墨系紙を墨バッテリーの器を備墨として墨を穴を穿ち車具墨の銘を適し
重し

一 ケツティング

重し

一 ゲウキクト

重し

一 鋼^鋼を以て橋^橋とて車^車具^具を何^何の
 器^器車^車より器^器車^車へ引^引の^のく^く一^一器^器車^車の下^下
 提^提鉄^鉄の重^重く^くも^も此^此重^重く^くも^も車^車を身^身何^何の^の重^重く^く
 下^下る^る陸^陸あ^あて^て車^車を^を下^下る^る器^器車^車
 器^器車^車周^周也^也を^を也^也と^と令^令固^固を^を結^結く^くこ^こを^を何^何も^も
 して^{して}重^重く^くの^の下^下る^る器^器車^車の^の車^車軸^軸の^の切^切大^大
 に^に建^建を^をして^{して}也^也と^と結^結く^く一^一連^連の^の始^始末^末を^を
 也^也車^車周^周也^也を^を重^重く^く上^上の^の何^何も^もなり^{なり}

洞埋板の各話

一 埋板を備^備置^置する^る器^器車^車を^を地^地中^中を^を
 際^際く^く水^水の出^出を^を掘^掘って^て鋼^鋼板^板を^を表^表裏^裏う^う幅^幅五^五寸^寸
 の洞^洞延^延板^板の^の紐^紐を^を也^也
此紐の束の線備置 此^此中^中に^に埋^埋但^但る^る器^器
ア印穴は續り 何^何も^も一^一の^の器^器車^車を^を埋^埋く^く其^其の^の器^器車^車を^を埋^埋く^く一^一水^水
 を^を少^少き^き取^取ら^らず^ずも^も器^器車^車の^の井^井石^石に^に入^入て^ても^もず^ずら^ら一^一也^也なり^{なり}
 石^石何^何も^も也^也
赤土白土を以て 也^也土^土キ^キト^トル^ル氣^氣を^を也^也と^と其^其の^の器^器車^車
 中^中を^を融^融く^く改^改む^む也^也なり^{なり}

細線鉄線の用法

一 導の線を引きつゝまた細線を目の如くして正しく引取り
漁に極まるまで西洋までハ高價を色ハ止事を得
引鉄線を目の且鉄線たるをを各魚の道理
た目一り色つて鉄を清の多く引つゝた扇うら
方るものなり細鉄線を目の如く引取り鉄線能く磨
滑りたるを其の社丹を清うけ引取り丁間長引
時々二枚目の目を引取りつゝ細線を引取りて

塩粒を攪を焼けて鉄一引取り引張り小
線の巻る地土其の石等小障の如く引取り丸
十間位見斗の粒を建柱の頭形四枚目の
圓の如くして頭の小線目を結り山岡の如く引
取り引取り又極まる急流の大河を引取り水底
に引取り水勢強大の小の如く引取り河原を
方へ巻取り葉て巻の如く引取り引取り引取り
また河原を引取り川幅狭く引取り其の如く引取り

た巻を葉のうへに貼るゝむ、あ方の理を考てまへ

一 海中を引きたる逆巻海に、その線へギウツタペルチャー

一枚の木の脂を塗るゝ其上を引きて包鉛の重りを身海

際へ引又遠路の海中を引てもギウツタペルチャーを海

に線を六箇合せ麻草をてきき其上は膠膏粘

製を塗るゝ其上を二枚目の巻のこゝへ引線九十

海斗概合船の重り足す沈ん言うた九三貫目よ

して時斗二十三三ウ半圓時斗まで一ツ沈むる

遠海を経る事をせんむ先里較かゝる海底の

深測を量るゝ其後線の大板を算一箇万丈の

線を測れ大船兼艘も積糸前は測量をいふる

船へ糸筋の水先をさる其船より目下の物を標

よまに旗をさる深え所せしを同船より引く一艘

の船より大板を格是に線を巻引行登し二枚

目乃圓のこゝへ引線は多し竹外船より

積揚をいふと向端より且終目より六箇の線を二箇

丸一取よりおろし終合へ其取よりギョクダベルチャート
 塗り大線まで終月乃時なきよし又吉し終結へ
 一 船者の船を正しく船その日の帆前の船をた風
 小陸の形を正しくおろし

テレカウフ 操用法の条

一 テレカウフを仕掛人より前小取より取の要具一式
 を備へ此方より等合をとりおろし思は鍵巻の
 本糸を指めて押せわ陶器中の辻丹より起る

一 エレキトルを鍵巻横へ通し梭子小糸をとり向合より

一 地中の細く通し地中をめぐらし。後方の通しより彼方の巻上より

一 導線を通し此方の巻上よりおろし十二枚目の

一 用を足して能く考へたるる一箇中矢の画り

一 ね通し子のめくりをとりせむ考へる

一 エレキトルを中を通過の力よりくわしサツをハフ面
 へ通しそのなりよりして壺中より起り地中を通し導
 線を通し又本糸を壺中へ通しおろし周りを止

事なく木糸を押し能く業を熟練の者
何れも極めて骨節の齧齧と一從令れ東
の方より合圓をせむやを一時木糸をカツカツカ
カ此のこゝに教限りなく指先を押し是唯
今合圓をなしたるをとり此言西の方乃極意の
進退細く換子上下して同袖の音細音なり此言を
さすといふも木糸を押しは西の方の響細音を絶てし
つて東の方の進退細く音をなしたるて東の方を

西の方へ通したる事をなすは押
手たる木糸を離し車具サ巻の牡丹舟の引棒
を引たいを紙巻等の二合能く見改まらぬ
意調ねたるは木糸を細のこゝにカツカツカツカ
カ叩き東の方極意の進退細く音は音なり見情
方用意調ねたるをなすは其言東の方を教
木糸を押し叩きて骨節を響かすは一方より車
具巻の紙巻車より巻いたる糸を引出心をなす

合図の終り

—— 長点を記す ——

一 合図請方よつた長点の取つた合図の終り終り
 ありとありの旨微強語をく面通せたる合図のさ
 心得る事と東の方よありしむ魚——と——合
 図のさ味をさつた時其さをもさしむ魚——
 其面通ハ元の仕掛の——さう以別双方の旨
 微面通何さる合図の初ささ事有るさ
 次名洋水糸の叩き且着点の取へまきて強語

七何事なりと能く強さる人よ此業をなす
 ——む魚——と——とテカラフを仕掛るは前双方橋
 臺乃進退翻の切目一步二歩の切し目の約を究む
 二其肝要をくおみ五年トル多力の強弱を識る
 あり線ハ方針を考て試る魚——字力面——さけ
 とも線ハ方針ハ十文字あるものなりと多力
 弱さるハ方針ハ十文字ハ弱くこ——さけハ三
 枚目の図を考へて考へるべし

